

P
D
Check
Action

	プラン(9月) ○身に付けたい力 ・具体的な方策	評価・改善(2月) ○成果:△課題:◎改善策
小中連携	<ul style="list-style-type: none"> ○自分自身を見つめ、課題の解決に前向きに取り組む力 ○自分の生き方に見通しを持ち、根気よく効果的な努力を重ねる力 ○自分の良いところを客観的に見つめ、自己肯定感を高く保ち、何事にも前向きに取り組む力 ・小学校との一貫性のある指導を追究する。 ・関係諸機関との連携を図り、個別の教育支援計画を作成し、生徒の将来を見越した包括的な支援を行う。進路指導を3年間を見通して系統的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校との緊密な情報交換を通して、生徒の発達の課題を明らかにし、克服するように勇気付けた。生徒の成長発達に著しい効果が見られた。 ◎個別の教育支援計画の活用を図り、より組織的に小中連携を追究し一貫した指導を行う。
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーション能力・読解力・表現力 ○体験したことや社会のルールや望ましい行動や態度について、文章で表現する力 ・習熟度別にグループ学習を行い、個に応じた学習目標・指導法を設定する。 ・漢字の読み書きや辞書引きにより語彙を習得させる。 ・文章を言葉の根拠に、内容や組み立てを読み解く授業展開 ・行事や身近な経験を題材に作文を書き発表させる。 ・百人一首等を通して日本の伝統文化に親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字練習、暗唱は熱心に取り組んでいる。 ○文章を朗読し、内容を大まかにとらえることができる。 △作文は意欲的に書けるが、正しい表記で組み立てを考えると表現するのは苦手である。 △日常生活でも語彙が少なく、不確かな意味で使っている場面が多く、相手の感情や真意を汲み取りながら話を聞くことが苦手である。 ◎言語的な能力に対するアセスメントを適切に行い、課題を明確にし習熟度別のグループ学習を推進する。 ◎キャリア教育との関連を図り、実際の体験や社会生活の規範などを題材とした教材を扱う。 ◎辞書の活用をこたあることを行い、言葉を正しく使えるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○学習した事を実生活の場で活用する力 ○地図やグラフまた絵図資料の読み取り能力 ・習熟度別にグループ学習を行い、個に応じた学習目標・指導法を設定する。 ・地理学習は、地図、パソコン、ビデオ等を利用して、より具体性を持たせ、実生活の場面と照らし合わせて繰り返し学習を行う。 ・個々の能力差に応じてスキルアップができる課題を準備する。 ・絵図資料の種類、意味の基本確認を行い、読み取りの練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○知的な好奇心を持ち、意欲的に学習に取り組む ○個々の能力差が、学習意欲の差に結びついている。 ○自分の力で考え質問をすることが増えてきた。 ◎使用する資料によって、生徒の興味・持ち方が変わってくるため、より身近で興味を持てる資料を使用する。 ◎課題別の2グループ編成は個に応じた基礎学力を身に付けさせるために有効であったので来年度も継続する。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○数学的な物の見方や考え方。自分の考えを説明する力 ・習熟度別にグループ学習を行い、一人一人に応じた目標・指導法を設定する。 ・教科書を使用し、文章・式・表・図を正しく読み取る指導を行う。 ・ノートの指導の徹底(1マスに1文字を書き、位をそろえて計算する等) ・具体物の操作を取り入れる。実生活に即した文章問題に取り組み、習得した知識・技能を日常生活で活用できるようにする。 ・小テストを繰り返して実施し、計算力の定着を図る。 ・教材を精選し、スモールステップで指導を行う。説明を減らし、作業や演習を増やし、問題解決能力を身に付ける。 ・自分の考えを発表し、お互いの考えを聞き合う機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書を開き、ノートととり、集中して学習することができる。 △知識・技能の定着が課題である。 △計算は方法を習得して熱心に取り組むが、文章題が苦手な生徒が多い。 ◎数学的な能力に対するアセスメントを適切に行い、課題を明確にし習熟度別のグループ学習を推進する。 ◎実際の数学的な事象との関連を図り、問題解決能力を高める。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○指示の内容を理解し、正確に実験・観察を行う力 ○実験・観察の結果を考察し表現する力 ・毎時間、実験・観察を取り入れる。1時間の授業の学習課題を一つに絞る。 ・実験の結果や自分の考えを発表し、検討し合う場面を設ける。(事実と意見を分ける。根拠をもって意見を述べる。) ・準備や片付け、安全に関する指導を徹底し、実験に自律的に取り組めるようにする。 ・ITC教育を取り入れ視覚的にわかりやすい授業を行う。 ・キャリア教育の観点から、科学と職業の関連についてふれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心を持ち、意欲的に取り組む生徒が多い。 △実験・観察が楽しい経験にとどまらず、科学的な思考力の形成に至りにくい。 ◎生徒が創意工夫ができる安全な実験を毎回体験させる。体験に基づき、気づいたことを文章に書かせ自由に発表させる。その中から、共通の課題を見つけて出し、自分の考えや予想・仮説を発表させる。統制された条件の下で実験を行わせ、結論を導かせる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなで作り上げていく大切さや楽しさを感じる気持ちを持たせる。 ・個別の目標を立て、達成されていく喜びを味わえる授業を行う。 ・課題を明確にして、どのように取り組むべきかを理解させる。 ・個人の得手・不得手を把握し、適切な役割を与え、みんなで作り上げていくことの意味を感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○合唱曲、ハンドベル演奏曲に対して前向きに取り組む、聞きながら、表現する努力をしている。○キーボードも取り組みでは、各自、好きな曲を選択し、演奏を楽しみながら学習している。 ◎適切なカリキュラムの設定を行うために、基本的な同じレベルの課題を学習させた上で個々の課題を選択させるようにする。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○創造的に表現、鑑賞する力 ・三原色を使った混色法で着彩し、色彩の基礎を理解させる。 ・基本的な技術を指導し、作品を完成させる達成感を体験させる。(形を認める力、表現する力、正しい道具の扱い方など) ・友達の作品を鑑賞し、お互いの良さを認め合う場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○色や形の表現方法や技能等、新しいことを前向きに取り組んでいる。 △作業の技能や進度に個人差が大きい。 ◎絵画の基本的な技術を習得させ、自由に個性豊かな創作活動を行う。 ◎色彩に関する基礎的な課題に取り組み、自分の望む色が自由に作り出せるようにする。 ◎生徒の潜在的な創作力を最大限に引き出すために、繰り返して課題に取り組ませる。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ○運動が苦手な生徒に、運動の喜びや楽しさを味わわせる。 ○自ら課題を見つけ、一生懸命に取り組む、実践できる力をつける。 ・集団行動を通して、授業規律を確立させる。 ・基礎的な体力や筋力の向上を図る増強運動を毎時間取り入れる。 ・個別の評定を重視し、できた喜びを実感させていく。 ・個々の生徒が自身の体力や技能について知り、課題をみつめる。 ・心身の発達や安全・健康についての授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業規律を守り、積極的に授業に取り組むことができる。 ○仲間と協力して取り組み、生徒同士で称賛し合うなかで、喜びを実感することができる。 △基礎的な体力や筋力が少ない。運動に親しむ習慣が乏しい生徒が多い。 △自分の体の使い方に課題のある生徒が多い。 △様々な動作が組み合わさった動きは、困難である生徒が多い。
職業・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活における基礎的な動作や作業の習得 ○もの作りを通して実生活での活用を体験させる ・授業で取り組む内容を明確にする。 ・一つ一つの作業工程をわかりやすく説明し個別指導する。 ・安全に作業を行わせ、道具の使い方や材料についての知識を習得させる。 ・家庭生活における自分の役割について意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に、興味・関心を持ち意欲的に取り組む生徒が多い。 △授業時間が100分(2時間)と長時間で集中力を維持することが困難な場合もある。 ◎家庭での日常生活における自分の役割を認識し、体験を通して作業内容の定着を図る。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○初歩的な英語に親しみ、会話表現ができるようになる。 ○言語や文化に対する関心を深め、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 ・リズム学習やチャンツ、歌など、様々な表現方法を用いながら英語のことが右脳にインプットされるように取り組ませる。 ・ALTの先生と協力し、対話、交流をすることで、会話の定着を図り、国際人としてのマナーも身に付けさせる。 ・言語活動用のワークシートを使い、楽しく自己表現ができるようにする。 ・毎回聞く・話す活動に加えて、読む・書く活動も副教材やカードを使用、繰り返しての練習が定着できるようにする。 ・個々の能力に配慮しながら必要に応じて文法の基礎知識を身に着けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○英語に興味を持ち、よく声を出して意欲的に学習活動に参加している。 △言語活動において、聞く・話すは理解しやすく、取り組み易いが、読む・書くという分野では、苦手意識をもつ生徒が多い。そのために会話練習などの音声で課題が定着した後に、単語書きを行っている。 △あいさつや単語のような短いことばは覚えやすいが、文法力を要するよな文章にも取り組めるようにしている。長い文章はリズムマシンなどを使用してリズム学習でインプットするようになっている。 ◎英語教育の充実を学級の特徴とし来年度は週2時間、課題別の授業を設定する。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめや差別を許さず、互いの生命や人格を尊重する態度を育てる。 ○社会の一員としての常識やマナーの学習を通して、規範を尊重し正しい判断に基づいた行動が自主的にできるようにする。 ・日常生活の、言語環境を整え、正しく丁寧に関わり、話す姿勢を継続的に意識付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人権に関する基本的な考え方は定着させることができたが、具体的な人間関係の中で日々実践していくには、まだ課題残る。 ○日常的なあいさつや社会常識は身につけている。 ◎将来の社会的な自立を目指し、キャリア教育との関連を図り、学校内部だけでなく、実社会でも通用する道徳的実践力を身につけるようにする。
総合	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を発見・設定し、調査・体験を行い、成果を発表する力。 ○将来の社会的・職業的な自立への意識を高める。 ・農業体験・職場体験を通したキャリア教育の推進。防災や節電等の取り組み。 	<ul style="list-style-type: none"> ○農業体験を通して信州地方に行き、地理の学習をした地域を肌で感じ、知識を確実にすることができた。農業体験で食育に対する興味が広がった。また地域の方々と楽しく交流することができた。 ◎職場体験を通して社会体験をすることで、仕事への興味が高まり、自分の進路について考える機会を増やすことができた。仕事をやり遂げることで自信をもつことができた。 ◎キャリア教育との関連を図り、生徒の将来の自立に必要な知識・技能・態度を明らかにし、体験活動の中で、働く意義と大切なことを実感させる。

	プラン(9月) ○身に付けたい力 ・具体的な方策	評価・改善(2月) ○成果:△課題:◎改善策
特活	○学校行事等を通して、通常学級との交流を深め、中学生としての一体感を高める。 ○近隣小学校及び地域との連携を通して、体験の幅を広げ規範意識や社会性を身に付ける。	○体育大会前の一ヶ月間、交流級として所属する通常学級に混ざって体育の授業に参加し、努力することができた。本番当日は各学年種目や学級対抗リレーに参加し、クラスの一員として全力で取り組むことができた。 ○近隣小学校の児童が来て一緒に授業を受ける交流会では、規範意識を持ち、積極的に関わることができた。 ○様々な体験活動を通して、公共のマナーや社会性を身に付けることができた。
自立	○他者の意図を正確に理解し、論理的に判断し、適切に表現する能力。日常生活において状況に応じて適切な対応をする力。 ○生活上の困難を改善・克服し強く生きる意欲を高める。災害などの不測の事態に対して、冷静に行動する力を育てる。	○日常の基本的な動作は、丁寧にいう習慣が身についた。△家庭における基本的な生活習慣に課題がある場合があるので、保護者との連携を深め、改善を図る。 ○認知の特性を理解し、適切な指導法を工夫する。脅威sつ環境の整備、ITCを活用した資料の提示、指示の精選などあらゆる方法を追及する。 ○生徒を常に勇気付け、自己肯定感の向上を図る。
日常生活	◎時計を見て自立的に行動する習慣 ◎周囲の人を思いやった言動を取る力 ・予定変更時は、落ち着いた状況で全体に説明し、個別に説明や支援を行う。 ・時間や場面に合わせた行動ができなかった場合は、その都度、声掛けを行い、次の行動目標とする。	○清掃の手順をよく理解し、作業中は私語をせずに集中して取り組めるようになった。 ○班長が時計を見ながら班員へ適切に指示することができた。 ◎役割分担・指示・責任・時間配分などの事項について、実際の活動を通して指導し、自分達で評価・改善できるようにする。
生活学習単元	○体験を文章で表現させ、自己の成長を意識させる。 ○自己や集団の課題解決・目標達成を通して、自己肯定感を高める。 ・通常の学級や市内特別支援学級や小学校との交流学習などを表現の機会として意識的に活用する。	○行事の取り組みはとても意欲的である。 ◎行事を通して、どのような力があったのか常に明らかにする。行事と教科学習のバランスを図る。 ◎生徒が自ら計画話し合う活動を設定する。 ◎地域の人材を活用し、生徒に豊かな体験をさせる活動を1学期に一度企画する。
作業	○指示の内容を理解し、指示に従って正確に作業を行う力 ○安全への配慮が自分のできるようにする。 ・作業の過程をスモールステップに分割し、課題を明確にする。個別に評価を行い、技能を確実に習得させる。 ・作業と職業の関連について気付かせる。	○ものづくりに興味を持ち意欲的に取り組める。 △作業の技能や進度に個人差が大きい。 ◎全体の組み立てを意識させ、各工程のポイントを伝える。 ◎用具・材料の準備、整理整頓、安全への配慮を徹底して指導する。

を家庭で学ぶための工夫	◎年3回の三者面談を行い、その時点での生徒の到達点と課題、方策を明らかにする。◎進路に対する指導を1年次からを行い、各人の学習のニーズを常に明らかにする。
-------------	---